

令和3年度

学校関係者評価報告書

「令和2年度・自己評価」に基づいた学校関係者評価委員会による評価

令和3年6月1日

学校法人昌賢学園 群馬社会福祉専門学校

学校関係者評価報告書について

1. はじめに

平成 19 年にあった学校教育法、及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価の実施・公表が義務化され、学校関係者評価の実施・公表が努力義務とされるようになった。

本校においてもその重要性を理解し、組織的・継続的な教育活動等の改善と、生徒・卒業生、関係業界等との連携協力による特色ある専修学校づくりを目的として、自己評価を基にした学校関係者評価を行っている。

なお実施に際しては、平成 25 年に文部科学省生涯学習政策局において発表された「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考にしている。

2. 自己評価

教職員が、本校の理念・目標に照らして自らの教育活動その他の学校運営について振り返り、改善につなげることを目的として行っている。評価項目については、文部科学省によるガイドラインを参考に 1. 教育理念・目的・育成人材像、2. 学校運営、3. 教育活動、4. 学修成果、5. 学生支援、6. 教育環境、7. 学生の募集と受入れ、8. 財務、9. 法令等の遵守、10. 社会貢献・地域貢献の 10 項目を策定している。

3. 学校関係者評価

本校で行った自己評価について再度の検討を行うことで客観性と透明性を保ち、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。生

徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者などを、学校自らが選任し、構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行うものである。

評価の際には、1. 自己評価の結果の内容は適切か、2. 自己評価結果を踏まえた今後の改善策は適切か、3. 学校の重点目標や評価項目等は適切か、をポイントとした。

4. 学校関係者評価委員 5名について

以下の5名を外部評価委員として、学校関係者評価をお願いした。

- ・委員長 社会福祉法人理事長
- ・委員 医療系大学学部長、元高等学校長
- ・委員 在学生保護者
- ・委員 在学生保護者
- ・委員 群馬社会福祉専門学校卒業生、社会福祉施設職員

5. 評価期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日

3. 学校関係者評価委員会実施日時

実施日：令和3年4月22日（木）

場 所：群馬社会福専門学校 2階合同教室

<参考>

文部科学省生涯学習制作局（平成25年3月） 専修学校における学校評価ガイドライン

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/11/15/1348103_1.pdf

基準 9 法令等の遵守	17
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	17
9-33 個人情報保護.....	17
9-34 学校評価.....	17
9-35 教育情報の公開.....	17
基準 10 社会貢献・地域貢献	19
10-36 社会貢献・地域貢献.....	19
10-37 ボランティア活動.....	19
4 令和2年度総括と令和3年度の改善目標	20
5 学校関係者評価委員会の意見	21

1 学校の理念、教育目標

教育理念と教育目標

本校では、孔子の「仁」とそれを展開した「五倫」、「五常」を踏まえた「礼」の実践を掲げている。これらを統合した「仁愛」の精神を教育の理念とし、人格陶冶とその発揚とした知行合一の心身教育および、新しい時代を担う有為の人材の育成に努める。また、理想とする福祉社会を希求し、探究心を持って積極的に取り組むことができる人材育成を目指す。そのためには、在学中に自身の課題・目標を捉え、専門的な知識・技術の習得が必要であることから、「知行合一」の考え方を基本として、以下の教育目標を定める。

本校は心から人類を愛し、豊かな人間性と幅広い学識経験を有した人材を養成し、乳幼児から高齢者に至るまで、あらゆる福祉の向上に貢献する人材の育成を目的とする。「介護を学んだ保育士・幼稚園教諭」「保育・幼児教育を学んだ介護福祉士」として生涯に亘り幅広く活躍できるよう教育を行う。乳幼児と高齢者が同一施設で過ごす共生複合社会を見据え、来るべき近未来の福祉社会を創造するスペシャリストの育成を目指す。

2 令和2年度の重点目標と達成計画

令和2年度重点目標と達成計画に関する評価

新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりを受け、充実した学習機会の提供と安全な学校生活の保障について多くの検討を要する年となった。それらを踏まえ、目標を以下のように設定し計画を立てた。

<目標>

1. 授業オンライン化の推進
2. 新しい生活様式による学校生活の安全確保

<計画>

1. 郵送による課題のやり取りから、Google meet を通したライブでの授業提供を段階的に取り入れ、密を避けての分散登校を計画的に行う。
2. アルコールとペーパータオルの設置や、ソーシャルディスタンスの確保、1日に3度の検温など学校生活を送るうえで新しい生活様式を取り入れる。県の警戒レベルに細心の注意を払い、必要に応じて自宅での検温や行動の記録を進めていく。ボランティア等課外活動は休止とし、保育実習Ⅰ(施設)は延期とする。また6月に予定していた介護実習は国・県の指針に基づき校内での代替実習とする。

Google meetをはじめ、class room や Google form の使用などオンライン化が進み、校内の密を避けるための分散登校も計画的に行うことができた。学外活動は自粛とし、実習は延期としたが、特にボランティアは本校の特色でもあるため、社会情勢を注視しながら慎重に再開を検討していきたい。

最終更新日付

令和3年年3月31日

記載責任者

橋本 祐

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4 3 2 1
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 3 2 1
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 3 2 1
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 3 2 1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<p>1. 地域に貢献する福祉のスペシャリストを養成するとの理念は、教職員、学生間に強く理解浸透している。しかしながら、本校が先進的に取り組む、幼児と高齢者が共生する近未来の福祉社会のあり方を具体的な研究成果に基づいて関係者および社会へ提示するには不十分であった。</p> <p>2. 令和 2 年度はコロナ禍による影響を考慮し、学習成果発表会を動画として撮影し、それをオープンキャンパスの参加者に向けて zoom を用いて公開した。参加者からは学校の雰囲気や学生たちが学んできた内容を知ることができたと好評であったが、より深く本校の特色を伝えるには時間が短かった。</p>	<p>1. 改めて、保育士・幼稚園教諭二種免許・介護福祉士の 3 資格取得により、自分自身の将来の可能性が広げられることを再認識できるような実利的・実践的な授業や取り組みを増やしていくことが必要である。具体的には、福祉保育学科の学生が高齢者施設にボランティアに出向く際や施設実習で障害者とかかわる時、福祉用具の基礎的な理解や、認知症の理解など校内外の学習と実践が結び付けられるような取り組みが求められる。慎重に社会情勢を見極めつつ、校外学習の機会を検討したい。</p> <p>2. 学生たちの発表動画を、今後のオープンキャンパスでも使用することで学生の様子とともに、本校の特色である保育と介護を学べる利点について、アピールしていきたい。</p>

最終更新日付	令和 3 年年 5 月 25 日	記載責任者	橋本 祐
--------	------------------	-------	------

基準 2 学校運営

2-2 運営方針

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4	3	2	1

2-3 事業計画

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	3	2	1

2-4 運営組織

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1

2-5 人事・給与制度

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	3	2	1
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	3	2	1
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	3	2	1

2-6 意思決定システム

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	3	2	1

2-7 情報システム

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4 3 2 1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<p>1. 学習面では入学、学習、卒業までのポリシーを学校案内等に明記し実行している。財務面では、法人として公表をしている。</p> <p>2. 令和2年度は、学生の分散登校や在宅学習をはじめ、教員の在宅勤務など学習や勤務のリモート化が進んだ。当初は郵送により課題をやり取りしていたが、法人から学生個別のアカウントが提供されたことで、オンライン化が進んだ。</p> <p>3. 教員にも遠隔授業におけるスキルが求められる。</p>	<p>3. 法人内の大学も含めて、教員間にオンライン講義をする際のスキル差がある。年間計画を作成し、定期的に研修を行う。</p>

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	橋本 祐
--------	------------	-------	------

基準 3 教育活動

3-8 目標の設定

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	3	2	1
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	3	2	1

3-9 教育方法・評価等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	3	2	1
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	3	2	1
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	3	2	1
3-9-4 授業評価を実施しているか	4	3	2	1

3-10 成績評価・単位認定等

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	3	2	1

3-11 資格・免許の取得の指導体制

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	3	2	1
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	3	2	1

3-12 教員・教員組織

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4	3	2	1
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士国家試験対策においては、全国平均を大きく上回る好結果を得ている（基準4詳細）。 2. 教育課程では、高齢者分野・障害者分野・子ども分野それぞれ意見をいただき編成している。 3. 長引く少子化により年々出願者が減少し、一定レベルの学力での選考が困難になり、個人差が大きくなっている。授業態度・提出物・生活リズムなどあらゆる面で安定感のある学生とそうでない学生の差がある。 4. ICT を使った新たな試みとして、福祉型障害児入所施設の施設長より zoom を使ってご講義をいただくことができた。学生からは授業だけでは分からなかった現場の様子が分かったと好評であった。今後も施設見学と並行して外部講師によるオンライン講義を行うことで、本校の特色である子どもから高齢者に至るまで対応できる総合的な人材作りの魅力を発信していけるよう継続していきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長の意向で、いわゆる「足切り」は行っていないが、介護福祉士国家試験の結果は良好である。 3. 受験者数は低下しているが、定時制出身者の率は増えている。そのため学校に来ること自体、不慣れな学生もいる。支援的な見方も含め、学習できる環境を整えていくよう、非常勤講師も含めた綿密な取り組みを行っていく。 4. 保育実習に行けなかった際の学生については、会議を開き教員全体で対応を検討した。

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	上田勝己
--------	------------	-------	------

基準 4 学修成果

4-13 就職率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-14 資格・免許の取得率

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	3	2	1

4-15 卒業生の社会的評価

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職先との適性と踏まえつつ、学生の自己実現を促せるよう就職支援をしている。就職を希望する学生は100%就職をすることができている。 2. 介護福祉士資格取得に向けての特別講義を行っており、平成30年度は100%、また令和元年度は90%の合格率であった。 3. 福祉保育学科の学生は、玉川大学か小田原短期大学と提携しており、幼稚園教諭二種免許状の取得を目指しているが、取得に至らない学生もいる。3年次（介護福祉専攻科）に進級後も、幼稚園教諭二種免許取得のために学習を継続するが、介護福祉士国家試験の学習と両立は困難である。 4. 勤務年数の長い者は、介護福祉士会や県で行われる実習指導者講習会や各研修講師の資格、認定介護福祉士等の取得など積極的にスキルアップ、自己研鑽に励んでいる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 例年少数ではあるが、大学へ編入し、社会福祉士や精神保健福祉士等の資格取得を目指す学生がいる。 2. できるだけ2年次までに幼稚園教諭二種免許取得ができるような指導をしていく必要がある。テスト対策をまめに講義の中で行っていく等の工夫をしていく。目標を定め、意欲的に学習が継続できるよう、授業以外の時間でも励ましていく。 3. 介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫と5回の模擬試験の実施、朝と放課後の補習講義を実施し、結果の推移を軸に検討を加えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ● なお、介護福祉専攻科に関しては、コロナ禍を受けて第一段階実習に行くことができなかった。第二段階実習は、行くことができた。 ● また保育実習に関しては、2月に予定していた1Aの実習は令和3年7月に延期した。2Aの実習に関しては、行くことができた。

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	上田 勝己
--------	------------	-------	-------

基準 5 学生支援

5-16 就職等進路

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	3	2	1

5-17 中途退学への対応

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1

5-18 学生相談

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	3	2	1
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	在籍者なし			

5-19 学生生活

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	3	2	1

5-20 保護者との連携

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	3	2	1

5-21 卒業生・社会人

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4	3	2	1
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	3	2	1
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学年担任制とし、学生に対するきめ細かい指導を実践している。しかし、学生の育ちや家庭環境等が年々複雑化している現状にあり、保護者の理解、協力が得られない場合もある。令和2年度からは欠席数が一定になった学生に関しては、ひっ迫した事態になる前に電話で保護者に連絡することとしており一定の成果を得られた。 2. 就職支援に関しては、キャリアセンターにおいて、学生に必要な情報が提供できるよう求人票閲覧体制を整えている。また、就職に向けての指導と支援を計画的に実施し、履歴書の書き方、試験対策、模擬面接演習等、学生のニーズに応じた指導を実践している。一方、障害学生に対する就職支援に関しては、校内および校外への連携が求められた。今後も多様なニーズに応じていくためにノウハウを蓄積していく必要がある。 3. 学生の健康管理の面では、保健室の設置とともに、看護師の資格を有する教員を配置し、常時対応ができる体制を整えている。毎年4月には全学年一斉に健康診断を行い健康管理と指導に勤めているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から7月に実施した。 4. コロナ禍を鑑み、毎日3度の検温、黙食の勧め、外出自粛の指導などを行っている。在宅学習中の検温や行動履歴の記録には課題が残った。またボランティアに関しては年度を通して自粛となった。 5. 経済的な不安を抱える学生も多いため、法人から遠隔授業用機材の購入費の扶助やマスクの配布、その他奨学金等の案内を行い家庭での負担軽減に努めている。 6. 卒業後の支援体制としては、各種スキルアップ講習を開講している。キャリアセンターが卒業後の窓口となり、就職後の相談や就（転）職への継続的な支援とともにスキルアップ講習の受講を薦め、専門職としての資質向上に寄与している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生からの相談や学生自身の課題に対しては、クラス担任だけの対応では難しい事例も増えてきているため、キャリアカウンセラーをはじめとする校内の関係教職員が学生の現状を把握し、情報の共有を図りながら様々なアプローチを行っている。例えば、保護者に連絡し、理事長にも相談して、必要に応じて対応いた、学生対応には法人全体で取り組んでいる。 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 授業の内容によっては外部講師の活用も視野に入れ、学生にとって有益な情報の提供に至るよう地域のマンパワーの有効活用を工夫していく。 2. 多様な学生のニーズに応じていくために、発達障害者支援センターなどの外部の相談機関や、福祉的就労も含めた情報提供を行っていく。 3. 在宅学習前や連休前には、学級担任から、検温と行動履歴について忘れないよう声掛けを行う。 4. ボランティア活動の推進は、本校の特色であり、活動を通して自己の向上を目指すだけでなく、社会の一員としての自己を意識していける貴重な機会である。今後の社会情勢を注視しながら、慎重に再開を検討していきたい。

基準 6 教育環境

6-22 施設・設備等

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	3	2	1

6-23 学外実習、インターンシップ等

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	3	2	1
(課外活動自粛のため評定不可)				

6-24 防災・安全管理

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉保育学科の学生は、幼稚園教諭二種免許状の取得のため、図書館にて課題作成やレポートに取り組んでいる。各科目の学びを深めていくために参考文献になるような書物の充実をはかる必要がある。 2. レポート作成については、校内で管理されているパソコンは一人一台使用可能であり、プリンターなど自由に使用できる環境にある。 3. 施設利用について全学生が利用しやすいように、各教員が細やかに確認・整備等を行っている。掃除備品なども随時補充をおこない、活用できるように手配している。 4. 在宅学習に向けてパソコンやピアノのキーボードの貸出しを行っている。 5. 学外実習にあたっては、保育・介護を分けずに連携をはかり、指導教員を中心として教職員全体で指導を行っている。 6. 例年であれば本校1年生を対象とし、東京ディズニーリゾートコミュニケーションスキル研修を実施してきたが、現在は受入れ中止となっている。 7. 避難訓練を年に数回実施し、教員や学生と再度確認を行っている。避難訓練の担当箇所等も、配置を毎回変更し備えている。 8. 群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園が敷地内にあり、避難訓練を毎回同時に実施している。保育を志す学生にとっては、実際に自身も避難訓練を行いつつ、幼稚園の避難訓練の様子を直接見学もできることにより視野が広がり、学生の学びの向上に期待できる。 9. 各教室にはアルコール消毒液とペーパータオル、講師用のパーテーション、さらに清掃時用に使い捨てビニール手袋を設置した。また教室と学生食堂等の座席は、ゆとりのあるものにし、ソーシャルディスタンスを保てるよう工夫している。各階トイレにも消毒液とペーパータオルを常備し、玄関にもアルコール消毒液を設置、さらに来校者には必ず非接触型体温計での検温にご協力いただいている。 10. 授業終了後は、通常の清掃に加えて、机や床、使用した道具にアルコールでの清拭を毎回行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 東京ディズニーリゾートコミュニケーションスキル研修は、令和3年度に2学年合同で実施を検討している。 <ul style="list-style-type: none"> ● 施設の老朽化が進んでいるので、劣化が進んでいるところは補修を行い、全体の点検を怠らないようにする必要がある。 → トイレは学生から要望があり、暖房便座を新しく設置した。 ● 図書室において、幼児教育や介護に関する書籍をはじめ、周辺領域における本も増やしていく。

基準 7 学生の募集と受入れ

7-25 学生募集活動

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	3	2	1
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4	3	2	1

7-26 入学選考

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	3	2	1
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	3	2	1

7-27 学納金

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	3	2	1
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響によりガイダンスの中止が相次いだため、高校生と直に接する機会が例年より減ってしまった。 入学選考に関しては、面接を重視し、保育・幼児教育・介護福祉従事者としての資質を見極めるために面接している。合否判定方法に関しては、面接結果を得点化し、適正かつ公平な手法により選考を行っている。 オープンキャンパスは zoom を使った開催とした。手探りではあったが、ブレイクアウトルームを使って個別相談を行うなど、zoom の機能を生かして一定の効果上げることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> コロナ禍においても本校の魅力をアピールできる方法を考えていく必要がある。 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 少子化の影響により、高校の数も減少という状況である。専門学校希望者が家庭環境により就職へ流れる状況や、大学進学傾向が強まり、オープンキャンパスや進学ガイダンス参加者数が年々微減している。今後は、高校生だけではなく、大学生や社会人など潜在的な志願者を幅広く掘り起こす必要がある。 1.2 鈴蘭幼稚園を併設しており、学生の学びになる点も広くアピールしていく必要がある。

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	橋本 祐
--------	------------	-------	------

基準 8 財 務

8-28 財務基盤

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	2	1
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	3	2	1

8-29 予算・収支計画

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	3	2	1
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	3	2	1

8-30 監査

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	3	2	1

8-31 財務情報の公開

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生徒等納付金収入増額の手段を年々実施しているが減額の傾向が続いている。 2. 抜本的な将来計画が必要とされる中で新学部部門の増設が認可され、令和3年度より開校することとなった。 3. 新学部増設も含め施設設備整備は今後も外部借入金に依存しないで自己資金での運営を継続していきたい。 4. 学生への新型コロナウイルス感染症対策として学生支援を厚く実施したので財務的には経常収支差額比率は低下し、自己資金による新学部増設、設備整備は基本金組入が多額となり、繰越収支差額はマイナスの表示となった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境整備の改善計画と多種にわたる災害に応ずる整備対策とともに新型コロナウイルス感染症対策も併せて環境整備を図らなければならない。 2. 学生生徒等納付金収入減、人件費率の増加、学生支援対策等に伴う経常収支差額比率の低下には令和3年度より新学部が開校され完成年度に向けて改善されることになるが、今後も多角的運営に十分に考慮し努力を続けていかなければならない。 3. 学園全体としてみればプラスの収益である。

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	伊藤 芳雄
--------	------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	3	2	1

9-33 個人情報保護

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1、
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	3	2	1

9-34 学校評価

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1、
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	3	2	1
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	1
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	1

9-35 教育情報の公開

評価項目	適切：4、	ほぼ適切：3、	やや不適切：2、	不適切：1
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	3	2	1

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 関係法令や設置基準に基づいた学校運営、各種規則・規定の整備が行われている。また、セクシャルハラスメン等の対策については法人として取り組んでおり、対応マニュアルが整備・運用されている。 2. 学校法人昌賢学園としての財務状況等については、平成 22 年度以降については、群馬医療福祉大学 HP にて公開されている。 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 教務システムの活用及び管理の一元化を徹底する。個人情報の取り扱いに関する職員間の共通認識を行う。

最終更新日付	令和 3 年年 5 月 25 日	記載責任者	鈴木 国泰
--------	------------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

10-36 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	4	3	2	1

10-37 ボランティア活動

評価項目	適切：4、 ほぼ適切：3、 やや不適切：2、 不適切：1			
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	3	2	1
(課外活動は自粛としたため評定不可)				

総括と、適切でなかった項目について課題について	今後の改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園とも連携してペットボトルのキャップを回収しており、年に2度群馬県社会福祉協議会へ寄付している。 2. 社会人のキャリアアップ、再就職のためには、県からの委託により福祉分野の人材育成のための公共職業訓練を実施している。 3. 国の政策として保育分野では留学生を受け入れていないという現状がある。介護分野では受け入れが認められているが、本校の介護福祉専攻科は、保育士養成施設を卒業した保育士資格取得者が入学できるため、留学生の受け入れは困難である。 4. コロナ禍の影響を鑑み、ボランティア活動は自粛とした。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の方が学校でペットボトルキャップを収集していると知って、持参して下さることがある。 3. 留学生の受け入れに関しては情報収集を継続し、必要があれば対応していく。 4. ボランティアは、本校の目指す建学の精神や教育目標となっている。礼儀や基本的なマナーを学び、自分の将来像を明確化していくきっかけの一つとなるため、今後は社会情勢に注視しつつ、活動の再開を慎重に検討していきたい。

最終更新日付	令和3年年5月25日	記載責任者	上田 勝己
--------	------------	-------	-------

4 令和2年度総括と令和3年度の改善目標

令和3年度重点目標と達成計画に関する評価

学園運営の根幹である「仁」の理念は教職員、学生に浸透し、学修成果は資格取得率の高さや完全就職に現れている。一方、コロナ禍を受けて、ICTやオープンキャンパスの実施方法、また外部講師との連携等、新たな課題もみえてきた。これまで見てきた各基準での評価をもとに、「令和3年度の改善目標」を示し自己評価報告を終える。

○基準1 教育理念・目標 ・ ○基準2 学校運営

- ①地域に貢献する福祉のスペシャリストを養成するとの理念は、教職員、学生間に強く理解浸透している。
- ②今後は社会情勢を慎重に見極め、ボランティア等の校外学習を通して、本校の勧める保育士・幼稚園教諭二種免許・介護福祉士の3資格取得により、自分自身の将来の可能性が広げられることを再認識できるようカリキュラムを検討する。
- ③オンライン授業のスキルについては、年間計画を作成し、定期的実施する。

○基準3 教育活動 ・ ○基準4 学修成果 ・ ○基準5 学生支援

- ①授業態度・提出物・生活リズムなどあらゆる面で安定感のある学生とそうでない学生の差がある。
- ②安定感に欠ける学生に対しても、支援的な見方も含め、学習できる環境を整えていくよう、非常勤講師も含めた綿密な取り組みを行っていく。
- ③ICTを使った外部講師による講義など、今後も工夫あるカリキュラム作りをしていく。
- ④介護福祉士国家試験の合格に向けては、日々のカリキュラムの工夫と5回の模擬試験の実施、朝と放課後の補習講義を実施し、結果の推移を軸に検討を加えていく。
- ⑤教職員の学生サポート力の向上を図るほか、外部人材を含めたチームサポート体制を組織するなどの連携を検討する。

○基準6 教育環境

- ①コロナ禍を受けて、アルコールを使った清掃の徹底や、遠隔講義に必要な物品の貸し出しを行った。
- ②校舎の老朽化した箇所の点検や、図書館の充実をはかっていく。

○基準7 学生の募集と受け入れ

- ①新型コロナウイルスの影響によりガイダンスの中止が相次いだため、高校生と直に接する機会が例年より減ってしまった。オープンキャンパスはzoomを使っての開催とした。
- ②コロナ禍においても本校の魅力をアピールできる方法を考える必要がある。また、大学生や社会人など潜在的な志願者を幅広く掘り起こすことも検討していく。

○基準8 財務 ・ 基準9 法令等の遵守 ・ 基準10 社会貢献・地域貢献

個人情報保護法や各種法令遵守のための、教職員の共通認識を深めてゆく。教務システムの活用及び管理の一元化を徹底する。

5 学校関係者評価委員会の意見（令和3年4月22日学校関係者評価委員会にて）

■外部評価委員ご意見

- 就職先でも、しっかりと掃除をしている様子がある。
- 礼儀もできており、良い学生が多い。
- 足きりしていないのに、介護福祉士国家試験の合格率が高いのはすばらしい。
- 感染症が疑われ出校停止となった場合など、再試験の条件をより柔軟に解釈できるようになると良い。
- PR の手段としてパンフレットを使うのは、保護者世代には良いと思うが、高校生には SNS を使う方が効果的かもしれない。
- ホームページやインスタなど、情報発信の一部を学生が担当するのはどうだろうか。
- 学生たちが関心をもてるような SNS をまめに更新できると良い。
- 多様な学生がいて、コロナ禍にも対応していかなければならないのは大変だが、今後も継続した取り組みをお願いしたい。
- 朝夕のホームルームと、補習を実施していることは指示の徹底と学びの理解を助けてくれる。きめの細かい親身になった指導がなされている。
- 学生のみで掃除しているところは、きれいとは言い難い箇所がある。
- 築 30 年以上の校舎にしてはとてもきれいだと思う。
- 通学生も制作に参加し、高校生が見て関心が持てるような SNS の発信が大事だと思う。
- 「群社の実習生に来てもらいたい。これまでも良い人材に実習を込めて入社してもらっており、とても良い印象だ」と福祉施設から声をかけられることが時々あり、関係者としてとても嬉しい。今後も同様の教育を続けていただきたい。

以上